

「NPO法人 北小学舎」放課後子ども教室(館林市教育委員会後援)

・・・未来を作る子ども達とともに・・・

NPO法人北小学舎 学舎長 篠木 日出夫

近年、青少年における倫理道徳の退廃が著しく、自他の尊厳や義務感の欠如など、規範意識の低下からくる短絡的な問題行動が沢山起きています。他に対する十分な配慮や理解を欠いたまま、自己主張のみの態度は一方的であり、周りから歓迎されません。「家庭」「地域」の教育力の低下にともない、集団の中でのマナーの悪さ・ルールの軽視・他者への迷惑を顧みない振る舞いや責任ある行動がとれないなど、将来を憂う状況となっていると言っても過言ではないと思います。幼少年期に「いけないことはいけない」「自分がされていやだと思ふことはしない」「人に迷惑をかけてはいけない」など人間としての基礎をきちんと教えておく必要があると思います。また、今日の青少年を取り巻く状況は目を覆うばかりです。アダルトサイトやゲームにより好奇心をあおる、親殺し子殺し、いたずら目的の誘拐、いじめや自殺の深刻化等あげればきりがありません。

昔、日本では家長制度の中、大家族で暮らしていました。そこではおじいちゃんおばあちゃんが孫の面倒を見ながら働く親を助け、悪いことをすると「神様が見ていて罰が当たるよ」などと言いながら、しつけをしていたものでした。そこには、異年齢間の生活があり体験がありました。そしてそれに地域がかかわり、優しい近所の人々、時には怖いおじさんおばさんがいて、いろいろな目が子どもたちを見守り育ててきたものです。異年齢間での体験は子どもにとってかけがえがありません。核家族化した現代、それに代わる場所が必要ではないでしょうか。今だからこそ、友達や仲間の失敗や挫折に「気にするな」「大丈夫」と声をかけ、励まし許し合う心や相手を思いやる気持ちを育てる環境作り、人間同士がうまくやれるような学びの場を設ける事が必要だと思うのです。

文部科学省では平成19年度より、子どもたちに関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の緊急的課題に対応し、未来の日本を作る心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため「放課

後子ども教室」の創設を推奨しました。放課後子ども教室は、《新しい公共》の考え方のもと、地域の方々の参画を得て学校等を活用し、すべての子どもを対象に安全安心な居場所を確保し、放課後や週末等に学習やスポーツ・文化活動等様々な体験活動や交流活動を行い、健全な育成を図ることを目的としております。次世代を担う子ども達を心身ともに健やかに逞しく育み、多様な人間関係の中、人間形成の基礎を身につける場を提供するものです。

平成 24 年 4 月、館林邑楽武道館（旧北小学校講堂）を拠点に、このような現代の問題の解決に放課後子ども教室が大いに役立つと考え、定年退職した小学校教諭、保育士達で「北小学舎」放課後子ども教室を立ち上げました。文科省が理想とするような放課後子ども教室を作ろう。「落ちこぼしをなくしたい」「思いやりや我慢する心を育てたい」「のびのびと遊ばせたい」などの目的を持った、金銭的に見返りを求めない人達ばかりです。

館林邑楽武道館（旧北小学校講堂）は、百年以上の歴史ある建物です。長年子どもたちの健全育成に貢献されてきた剣道や柔道の方々の理解を得て、無償提供を受けると共に礼儀や謙譲の心をご指導いただいています。幼少青年期は人格の基礎作りです。成長して大人になったとき困らないように、しっかりとした姿勢態度・言葉遣い等を身につけ、社会活動の一翼を担うようになって欲しいと思います。

「北小学舎」では「自らの意志と努力で学ぶ力をつけていきたい」をスローガンに、わかることの楽しさうれしさを味わわせ、次の成長につなげるよう学習の習慣化を目指し毎日机に向かっています。学校から帰ってくるとまず宿題を終わらせ自主学習を行います。教材は用意せず、教科書中心にわからないところをわかるようになるまで、できるだけマンツーマンで向かい合います。国語は音読を毎日行いしっかりと読みこなす、そして書き取りです。算数は類似問題をできるだけ多くこなす事に重点をおいて取り組んでおります。

「北小学舎」のスケジュールは、カリキュラムに沿って流れます。放課後の

子ども達は登舎後、学習・おやつ・休息・自由遊び・帰宅となっており、学校休校日（長期休業を含む）においては、登舎・自由遊び・学習・昼食・休息・学習・おやつ・休息・自由遊び・帰宅となっております。

夏休みには、サイエンス教室・絵画製作教室・英語教室・習字教室・読書作文教室・礼法教室等、各在籍の指導員やボランティアによる特別教室を実施し、体験教室として、春休みと夏休みに、バスハイクを行い、科学館・博物館・防災館等を訪れています。

子ども達の定員は35名ですが、夏休みには緊急的ニーズがあり60名までになります。現在17名の指導者が登録しており、児童7～8名に1名の指導員がつけるよう、通常4名、学校休業日には8名が対応しております。

私達が立ち上げた「北小学舎」は主に自治体を実施している放課後子ども教室とは違い、行政の金銭的な補助を受けません。これからは、まさに《新しい公共》の精神として、住民が自ら作り、運営し、学び、生かす事が大切だと思います。運営は独立採算制で、受益者負担を原則としております。指導者の報酬は、些少ですが、生きがいとやりがい、信念と誇りをもって、業務に従事しております。

「ただいま」と今日も元気よく帰ってくる子ども達を迎えるとき、神前に礼をして、お帰りの挨拶をするとき、何が起きても、たとえ絶望の底にあっても、再び希望に向かって立ち上がる力を身につけてほしいと願います。腕力に優れ、学力に秀でているのも大切ですが、人は何よりも心が強くなければなりません。今こそ家庭、学校、地域が力を合わせて、子ども達が相手を理解したり愛したりする心を育て、身体、心を逞しく正しく育む為、最大限の努力をしなくてはならないと思うのです。

放課後子ども教室は、地域の人誰もが指導者になり、何かを次の世代に伝えることを目的としております。大勢の団塊の世代が退職を迎えた現代、今こそ、

次世代づくりは現役を退いた私たちが培った力を、青少年の健全育成の為に発揮することが大切だと思います。

平成 26 年、「北小学舎」はNPO法人になりました。信用と責任を持てる団体として地域に根差していくためです。微力ではありますが子どもたちを健全に育成する為、力を尽くしていきたいと考えております。

事業概要

平成27年2月作成

施設名	NPO法人 北小学舎	理事長	杉崎 光	学舎長	篠木日出夫
実施場所	群馬県館林市代官町10番一38号(館林邑楽武道館内)				

事業開始年度	H24年	活動内容	放課後子ども教室	補助の有無	無
--------	------	------	----------	-------	---

学習アドバイザー(元教諭)	6人	安全監理員	11人	ボランティア	≒25人
---------------	----	-------	-----	--------	------

コーディネーター	1人	年間開催日数(H25実績)	240日
----------	----	---------------	------

児童参加人数(1日当り)	35人
--------------	-----

活動内容	放課後子ども教室(遊び・学習の補助・スポーツ活動・文化活動等)
------	---------------------------------

経緯

平成23年立ち上げ準備、賛同者を募るとともに、館林邑楽武道館と交渉。無償提供を受ける。館林市教育委員会に放課後子ども教室として承認を受け募集開始。平成24年に開設する。22名の参加児童数にて事業開始、同年7月館林市教育委員会の後援を得る。同年度3月には、31名の児童数となる。25年度31名でスタート、同年度3月41名の参加児童数となる。26年度においては、児童参加登録48名で事業実施中。学習アドバイザー5名・安全監理員10名、コーディネーター1名にて通常4名、学校休業日には8名体制にて事業実施。

特徴

行政の補助を受けずに、受益者負担とボランティア精神の理念の元、独立採算にて運営を行っている。「自らの意志と努力で学ぶ力をつけていきたい」をスローガンに、宿題や音読・自主学習に力を入れている。異年齢間の交流を通して、社会性を育み礼儀や思いやりを身につけ、問題解決力や協調性を育むカリキュラムを実施している。夏休み等には、習字教室・英語教室・武道礼法教室・サイエンス教室等実施、また、地域活動に参加したり、ボランティアによるコンサートや奇術等も実施している。年2回のバスハイクにて、体験学習(防災・博物館等)を行っている。

その他

地域の人や活動団体と連携、ボランティアを多く受け入れるとともに、子どもたちの視野を広げ、体験の多様化を図っている。おやつはお菓子を用いず、おむすびを提供している。武道礼法教室をとおして、入舎・退舎時、おやつ時の礼、あいさつの習慣化を図っている。

課題

市当局や学校・地域の理解を得、順調に活動が認められてきたが、退職教員や社会教育にかかわってきた退職者が指導員の多くを占めているため、奉仕の精神や寛容さは高く、次世代づくりに貢献しているものの、高齢化が問題。教職希望者や地域ボランティア等の参加も増えてきているので、いろいろな人の参画を広げたい。